

地歴公民(日本史) 早稲田大学 社会科学部 1/1

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク式 37 問 (語句選択 9 問 正誤判定 26 問 年代整序 2 問) 論述式 1 問 合計 38 問

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・**難化**)

大問数 4 題、小問数 38 問で、ともに変化なし。語句選択問題は 1 問増加し、正誤判定問題は 1 問減少した。特に正誤判定問題は、「2 つ選べ」の形式が昨年度の 23 問から 5 問に激減した。論述問題は昨年度同様、近代から 1 問 (30 字以内) 出題された。

出題の特徴

大問が複数の時代にまたがるテーマ史が多い。例年、正誤判定問題が全体の約 7 割を占める。論述問題は 2021 年から出題され始めたが、近代からの出題が続いている。

その他トピックス

早慶レベル模試の **5** で、本試Ⅲと同様のテーマを出題した。

<大問分析>

| 番号 | 出題形式 | 出題分野・テーマ | コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど) | 難易度 |
|-----|----------------------|----------------------------|---|-----|
| I | 語句選択 正誤判定 | 古代～現代の土地 制度 《一部史料》 | 問 1 はイとロの判断が難しい。問 3 はハを正解としたが、この文は鎌倉初期の地頭のことであり、設問文の「鎌倉時代の地頭」に該当するか疑問が残る。問 9・問 10 は「農地改革」の詳細な内容が含まれる選択肢があり、やや難。 | 標準 |
| II | 語句選択 正誤判定 年代整序 | 日本の世界遺産 | 問 1 はニを正解としたが、西本願寺書院を伏見城の遺構とみなすかは意見が分かれている。問 2 はやや難。問 3 は難。問 5 は①と③の時期が確定できれば正解できただろう。問 6・問 8 はやや難だが、選択肢を 2 つまで絞って正解に近づきたい。問 9・問 10 は難。 | 難 |
| III | 正誤判定 論述 | 関東大震災からみ る都市の歴史 《史料》 | 問 1 は消去法によりロを正文としたが、「関東一円」という部分に疑問が残る。問 3 はやや難。問 4・問 5 は難。問 6 はやや難。問 9 は結成時期が分からないと正解できないため、やや難。 | 難 |
| IV | 語句選択 正誤判定 年代整序 | 近現代における人 びとの暮らしの変 容 | 問 2 はやや難。問 4 はやや難だが、早稲田大学志望者ならハとホまでは絞りたい。問 5 は耐久消費財の「世帯普及率が 50% を超えた」時期を並べ替えるので、難。問 7 は難。 | 難 |

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

毎年、一定程度の難問が出題されるが、そうした問題にこだわって知識の分量や詳細さを重視した学習をしても合格へは近づかない。端的に述べれば、難問で失点しても、基本～標準レベルの設問を確実に得点していけば、十分合格できるだろう。そこで知識の習得の際には背景・原因などにも気を配って思考力を養いたい。そうした学習は本学部で多数出題される正誤問題への対策になるだろう。また本年度のように大問レベルで史料問題が出題されることもあるので、そちらにも取り組んでおきたい。